

徳島県におけるサイクルツーリズムのあり方に関する一考察

徳島大学 賛助会員 ○久田慎太郎, 松下裕貴
徳島大学大学院 正会員 山中英生

1. 研究背景

近年、環境問題・健康増進の意識の高まりから自転車が注目されている。自転車は徒歩より広範囲に移動でき、時間や費用、混雑を気にする必要がないうえ、自然、健康的体験、文化とふれあうアドベンチャー・ツーリズム、健康的で環境負荷の少ないサステイナブル・ツーリズムの一つとして着目されている。

徳島県は「徳島県自転車活用推進計画」を2019年に策定し、「徳島ならではの資源を活用した新たな価値や魅力の創造」、「サイクルツーリズムの推進による魅力ある観光地域づくり」の目標が掲げて、自転車観光を推進している。2019年から徳島大学においても「徳島大学サイクルツーリズム講座」が開講され、日本全国のサイクルツーリズム関心層による情報交換が行われ、徳島県のサイクルツーリズムに関わる人材の育成が進んでいる。

2. 研究目的

本研究は徳島県における自転車観光の課題、ビジョン、コンテンツのあり方を提案することが目的である。このため、徳島県における自転車観光の関係者へのヒアリングを通じて県内のサイクルツーリズムの課題、ビジョン、コンテンツを整理したうえで、徳島県内外の自転車関心層および一般層を対象に自転車観光の課題、ビジョン、コンテンツについての意識調査を実施し、分析を行った。

3. 調査方法

徳島大学サイクルツーリズム講座の参加者から自転車観光のフロントランナーとなる関係者を抽出してヒアリングを行い、トランジションXカーブ図を作成して徳島県におけるサイクルツーリズムの課題とビジョンを抽出した。さらに、この結果をもとに徳島県内外のサイクリング関心層および一般層の参加意識を確認するWEB調査を行った。WEB調査は徳島県内・県外居住、自転車利用度の高さから調査対象者を4グループに設定し、スクリーニング調査を実施して対象者を抽出して実施し、対象層ごとの徳島県におけるサイクルツーリズムの魅力、サイクルツアーのコンテンツ案の選好度、支払意思を確認した。

4. ヒアリング調査

ヒアリング調査では徳島大学サイクルツーリズム講座に複数回参加している者に加え、複数回参会者から紹介者を受けた者、合計10名にヒアリングを行った。そして得られた意見をまとめ徳島県におけるサイクルツーリズムの課題とビジョンを考察した。

課題については以下が抽出された。ハード面の課題として「道路上の看板、標識が少ない」「道路の舗装が悪く車のモラルが低いため自転車走行が危険」「国、県、市の連携がとれておらずハード整備が進まない」といった点が共通して指摘された。一方、ソフト面では「ガイド、自転車屋としてのスキルを学ぼうとする人が少ない→スキルがないからお金が稼げない→ツアー価格の低下→お金が稼げない→サステイナブルな仕事にならない→人手不足、職人不足に陥る」という負のスパイラルを示す課題が発見された。

将来の理想（ビジョン）には「徳島の魅力を発信できるガイドの育成→自転車屋、ガイドという仕事の魅力をブランディング→職人、民間の人手不足を解消→行政が安心してサイクルツーリズムへ投資→ハード整備が進められる」といった好循環が指摘された。徳島のツアーコンテンツとしては「自転車と釣りやカヤックを連携させ、徳島の文化や暮らしを体験できる長期のツアー」「地元との交流や徳島ならではの自転車風景など、地元の温かみが組み合わさったツアー」「広域自転車道を利用したツアー（鳴門大橋サイクリングロード、吉野川沿いのサイクリングロード）」「サイクルキャビンを利用し徳島県内外にスムーズに移動し各地の魅力を体験できるツアー」の4つのツアーコンテンツ案が提案された。

5. WEB 調査と分析結果

WEB 調査では県内 2200 人、県外 2200 人にスクリーニング調査を実施して、調査対象者を抽出した。表 1 に対象者の属性と調査数を示す。ここで関心層とは、「観光地で自転車を利用して観光」「自転車ガイドツアー」「1日50km以上サイクリング」「ロングライドイベント」「長距離・宿泊の自転車旅行」の体験うち一つでも経験した者とした。

調査ではヒアリング調査で提案されたツアー案に対する選好を質問した。6つのツアー案について、最も参加したいツアーを選び、支払意思額を質問した。

図 1～図 6 は、5000 円以上支払えるとした回答者数を対象群ごとに示している。総じて徳島県外の層は県内者に比べて高い支払意思者が多い傾向が見られる。また、図 1「鳴門大橋サイクルツアー」、図 2「サイクルキャビンバス利用ツアー」、図 3「グルメ、地元触れ合いツアー」のツアーは他のツアーと比較して、徳島県外の一般層、県内外の関心層で高い支払意思額を示す人が多くなる傾向が見られる。このような 3 タイプのツアーが徳島のコアとなる魅力となることが示唆される。

6. 今後の課題

図 1 の鳴門大橋サイクルツアーのように、徳島県内外の関心層だけでなく一般層においても高額の支払意思を示す者が多くみられるコンテンツが存在している。こうした一般層にも魅力的に感じるツアーの開発、ブランディングによって徳島のサイクルツーリズムの拡充、持続性が高まることが期待できる。

謝辞：本研究は科学研究費補助金基盤研究 B（20H02278）の一環として実施した。

表 1 WEB 調査の抽出数

徳島県内 一般層 176 人	徳島県内 関心層 176 人
徳島県外 一般層 176 人	徳島県外 関心層 176 人

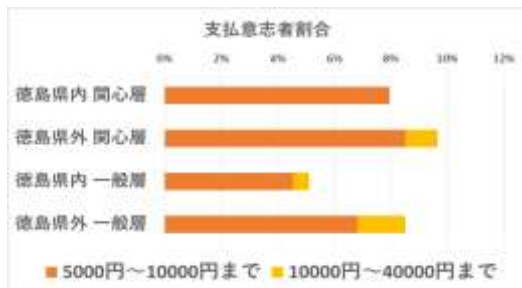


図 1 鳴門大橋サイクルツアー支払意志



図 2 サイクルキャビンバス利用ツアー支払意志

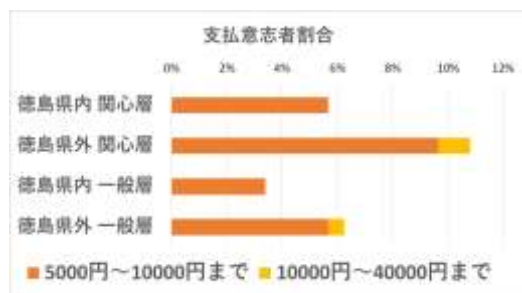


図 3 グルメ、地元触れ合いツアー支払意志



図 4 生活体験ロングツアー支払意志

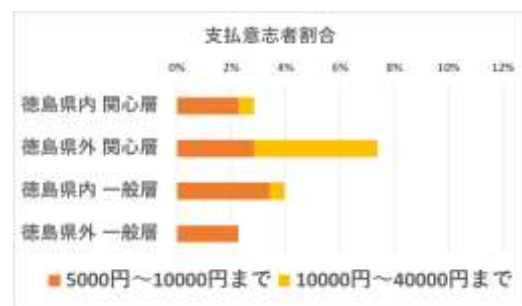


図 5 お遍路ツアー支払意志

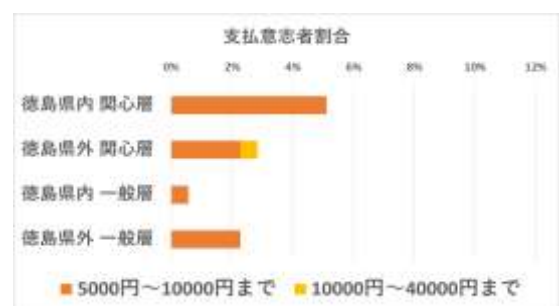


図 6 サイクルトレインツアー支払意志